

## I 研修主題・副主題

**自分のよさに気付きよりよく生きようとする児童の育成**

―道徳の時間において自分の生き方についての考えを深めさせる指導の工夫を通して―

## II 主題設定の理由

本校では、「豊かな心と優れた知力をもち、心身ともにたくましく生きる児童の育成」を目指し、「思いやりのある子」「自ら学び考える子」「心も体もたくましい子」を具体目標に据えて、日々の教育活動を展開している。今年度の学校経営方針では、「学校の全活動と関連づけた道徳教育の充実を図り、思いやりのある豊かな心の育成と、児童一人一人を大切に作る学校づくりに努める。」ことを重要な柱の一つとして設定している。

本校は児童数が少ないため、6年間クラス替えがなく過ごしている。そのため、児童の多くは、互いに思いやりの心をもって仲良く生活することができている。また、異学年児童同士の交流も盛んで、休み時間には学年に関係なく一緒に遊ぶ姿もよく見られる。その一方で、自分自身のよさを自覚できていない児童が多く、自己有用感の低い児童もみられる。先述した本校の児童のよさは、少人数のためそうせざるを得ないという部分もあり、児童にとっては当たり前のことと認識されているのであろう。また、児童相互の関係が固定化されやすい傾向があり、友達から固定観念で自分のことを見られてしまうことが多く、自分のよさを見つけたり、今の自分を変えてよりよく生きようと努力したりする児童はあまり多くない。

そのため、本校では、昨年度から、「自分のよさに気付きよりよく生きようとする児童の育成」を主題として、道徳の時間において自分の生き方についての考えを深めさせる指導法の工夫について研修を行ってきた。その結果、自分のよさや課題に気付いたり、自分とはちがう考えをもつ友達から学ぶ場面が見られるようになってきた。しかし、下学年の児童にとって、発問構成の工夫だけでは道徳的価値に向かうことは難しく、補助的な手段として役割演技などを取り入れたが、役割の設定や教師の支援のあり方について課題が残った。また、中心発問により出された考えについて比較・検討させ、道徳的価値に対する理解を深めさせるための教師の支援のあり方についても課題が残った。さらに、児童の振り返りを促すための資料や視点の提示などの手だてが不十分であるという課題が見られた。

そこで、今年度は、昨年度の課題を踏まえ、ねらいとする道徳的価値に向かわせたり、自己を深く見つめ直させりするための指導・支援の仕方をさらに工夫することで、自分のよさに気付かせ、よりよく生きていこうとする心を育てていくことにした。それにより、本校の学校教育目標である、「豊かな心と優れた知力をもち、心身ともにたくましく生きる児童の育成」を具現化できると考え、本主題を設定した。

## III 研修期間 平成 28 年度～平成 30 年度（第 2 年次）

## IV 研修のねらい

道徳の時間において自分の生き方についての考えを深めさせる指導を工夫して行えば、自分のよさに気付きよりよく生きようとする児童を育成することができることを、実践を通して明らかにする。

## V 研修の見通し(仮説)

道徳の時間において自分の生き方についての考えを深めさせる指導として以下の点を工夫して実践することにより、自分のよさに気付きよりよく生きようとする児童を育成することができるであろう。

- 1 展開前段において、児童の実態と資料の特質をおさえた発問構成やねらいに向かわせるための支援の仕方を工夫することで、ねらいとする道徳的価値について理解できるようにする。

- 2 展開後段において、特別活動や日常生活での体験を話題として提示し、道徳的価値についての理解を基に感じたこと考えたことを他者と交流するという活動を取り入れた振り返りの工夫をすることで、自分の生き方についての考えを深められるようにする。

## VI 研修の内容と方法

### 1 研修の内容

#### (1) 研修の全体構想図 資料1参照

#### (2) 基本的な考え方

##### (ア) 「自分のよさに気づきよりよく生きようとする児童」とは

本校では、「自分のよさに気づきよりよく生きようとする児童」を「道徳的諸価値についての理解を基に自分を見つめ、他者と考えを交流し合う中で、自己の生き方についての考えを深め、これからの生き方をさらによいものにしていくための判断力や心情、実践意欲・態度を身に付けようと努力する児童」と、とらえる。具体的には以下のとおりである。

「道徳的諸価値について理解する」とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階を考慮して児童一人一人が道徳的価値観を形成する上で必要なものとして取り上げられた内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なものであると理解すること。(価値理解)</li> <li>・しかしそれを分かっているにもかかわらず実現することができない人間の弱さを理解すること。(人間理解)</li> <li>・それを実現した(実現できなかった)ときの感じ方、考え方は人によって違うということを理解すること。(他者理解)</li> </ul>
「自分を見つめる」とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的諸価値についての理解を自分との関わり(これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方)と照らし合わせながら考え、自己理解を深めること。</li> </ul>
「他者と考えを交流し合う」とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ直して考えたことを話し合うこと。</li> </ul>
「自己の生き方についての考えを深める」とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が道徳的諸価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、自分のよさに気付いたり伸ばしたい自己を深く見つめたりすること。また、これからの生き方をさらによいものにしていこうとする思いや願いを深めること。</li> </ul>
「これからの生き方をさらによいものにしていくための判断力や心情、実践意欲・態度」とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の時間のねらいとして設定される判断力や心情、実践意欲・態度のことである。</li> <li>・道徳的な判断力…人間として生きるために道徳的価値が大切であることを理解し、様々な状況下でどう対処したらよいかを判断する力。 例、「あのとき、ぼくはこうすればよかったんだ」</li> <li>・心情…道徳的価値の大切さを感じ取り、善い行いをすることを喜び、悪い行いを嫌う感情。 例、「あの子のあの行動、いいな。まねしたいな。」</li> <li>・実践意欲…道徳的心情や判断力を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志。 例、「よし、明日の〇〇の行事の時には、この考え方を使うぞ」</li> <li>・実践態度…道徳的実践意欲に裏付けられた道徳的行為への身構え。 例、「この場面ではこんな行動をすればいいんだよね」</li> </ul>

##### (イ) 「自分の生き方についての考えを深めさせる指導の工夫」とは

児童にこれからの生き方をさらによいものにしていくための判断力や心情、実践意欲・態度を身に

付けさせるためには、展開後段において自分の生き方についての考えを深める活動を充実させる必要がある。そのためには、教師自らが道徳的価値に対する考えを深め、副読本などの資料分析と児童の状況分析を十分に行ったうえで、以下のように指導を工夫していく必要があると考える。

(a) 展開前段における、副読本などの資料に描かれた道徳的価値の理解を促すための指導・支援の工夫

発問の工夫	児童が葛藤したり、多様な考えを出したくなったりするような中心発問の設定	
手だての工夫	下学年	役割演技を取り入れる場面の選定と、その目的に応じた役割の設定
	上学年	ねらいに向かわせるための視点をもった話合いの設定および支援

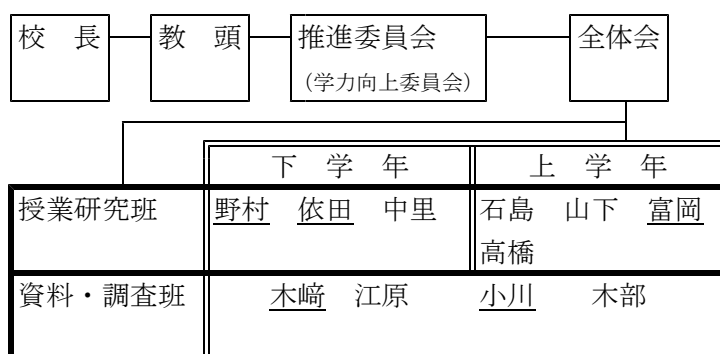
(b) 展開後段における、自分のよさや課題に気付かせるための指導・支援及び準備の工夫

別葉の活用	特別活動や日常生活での体験の教材化のために、別葉を活用し、学校行事を道徳教育の一環として全職員で共通理解し、情報を収集・共有すること ※情報とは…写真、ビデオ、アンケート、感想文	
発問の工夫	特別活動や日常生活での体験について、これまでの自分を振り返らせる際、本時で学ばせたい道徳的価値と関連づけた発問の設定を行うこと	
交流の工夫	気付いたこと、考えたことを道徳ノートやワークシートに書かせてから、	
	下学年	ペアやグループで互いの考えを聞き合う際、必要に応じて教師が仲介役に入り、共感できる考えやよいと思った考えを賞賛し合うよう促すこと
	上学年	・グループの場で、互いの考えを出し合う際、話し合いの視点を示し、互いの考えのよさを認め合ったり、問題点を指摘し合ったりするよう促すこと ・全体の中で話し合う際、マグネットなどを使って、全員参加の下で問題場面を解決するために最も納得できる考えを選び合うよう促すこと

これらの指導の工夫を年間を通して行っていけば、本校が目指している「自分のよさに気づきよりよく生きようとする児童」を育成することができると考える。

## 2 研修の方法

### (1) 研修組織



※下線は推進委員会メンバー

#### (1) 授業研究班

下学年・上学年ブロックごとに授業実践のための教材研究・指導案検討を行う。ただし研究授業は全員による参観と授業研究会を行う。

#### (2) 資料・調査班

道徳の授業にかかわる掲示物の作成と児童の意識調査を中心となって行う。

### ○研究授業

期 日	授業者名	年 組	教科等	主題・教材名	備 考
6 / 1 4	富岡 浩文	6年1組	道徳	「責任を果たす」C-(16)よりよい学校生活、集団生活の充実	校内研究授業①
9 / 8	中里 有希	3年1組	道徳	「友達と助け合って友情を深める」B-(9)友情、信頼	校内研究授業②

10/17	木崎 正美	2年1組	道徳	「みんなが使う物」C-(10)規則の尊重	校内研究授業③
10/30	小川 友紀	3年1組	道徳	「よく考えて節度ある生活を」A-(3) 節度、節制	校内研究授業④
11/8	野村りえ子	1年1組	道徳	「みんなが使う物」C-(10)規則の尊重	中期指導主事訪問
	石島 裕也	4年1組	道徳	「分かり合う友達」B-(9)信頼、友情	中期指導主事訪問
11/30	依田 匠	2年1組	道徳	「思い切って」A-(1)善悪の判断, 自律, 自由と責任	市道徳部会研究授業
～11/22	山下久美子	5年1組	道徳	「男女の友情」B-(4)友情、信頼	校内研究授業⑤
～12/4	江原 文子	一組	自立	思いやりのある言動を考えよう	校内研究授業⑥

○研修会 ※印は、学力向上委員会

月	日	推 進 委 員 会	全 体 会
4	4日 7日 18日	主題・サブテーマ等検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ルール、ノート指導について確認※(職員会議にて)</li> <li>・主題・サブテーマ等確認</li> </ul>
5	8日  24日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「各学年の目指す児童像」確認</li> <li>・児童意識調査の設問について→実施</li> <li>・指導案形式確認</li> <li>・中期指導主事訪問授業者決定</li> <li>・今年度の研修のモデル授業プラン</li> <li>・月1回算数スキルアップ研修①「今年度の学力学習状況調査算数AB出題傾向から各学年で身に付けさせたい学力」</li> <li>・1人一研究授業日程決定</li> </ul>
6	14日 27日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人一研究授業及び第1回授業研究会(6-1 富岡教諭)</li> <li>・前期指導主事訪問</li> </ul>
7	3日 20日	今後の研修について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の研修について</li> </ul>
8	23日  28日	2学期の指導戦略検討※ 紀要の書き方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季研修会報告</li> <li>・新学習指導要領についての研修</li> </ul>
9	4日  8日 27日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力学習状況調査結果分析報告会</li> <li>・2学期の指導戦略確認</li> <li>・第2回授業研究会(3-1 中里教諭)</li> <li>・月1回算数スキルアップ研修②「学テの誤答分析から見えてきた本校の児童の実態と対策」</li> </ul>
10	11日 18日 25日 随時		<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手SCによる講習「特別な支援を要する児童への対応」</li> <li>・第3回授業研究会(専科 木崎教諭)</li> <li>・第4回授業研究会(専科 小川教諭)</li> <li>・中期指導主事訪問指導案検討</li> </ul>
11	8日 13日 27日 30日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期指導主事訪問</li> <li>・勉強会「中期指導主事訪問での指導を受けて」</li> <li>・第5回授業研究会(山下教諭)</li> <li>・市道徳部会研究授業(依田教諭)及び授業研究会</li> </ul>
12	4日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回授業研究会(江原教諭)</li> </ul>

	22日		・新教育課程伝達講習
1	9日	3学期の指導戦略検討※	月1回算数スキルアップ研修③「昨年度のCRT分析結果から」
	15日		3学期の指導戦略確認
	29日		スキルアップ研修(道徳) 紀要原稿(各学年・教科の実践)執筆完了・提出日 児童意識調査実施→これを元に各学年で結果考察及び研修の 成果と課題をまとめる
2	5日	来年度の方向性について	各学年の児童意識調査結果考察及び研修の成果と課題報告
	21日		CRT分析の仕方について
	26日		講習「別葉の作り方について」(予定)
3	14日		来年度の方向性について

### (3) 検証:計画

	場面	観 点	方 法
仮説1 について	展開前段	①児童の実態と資料の特質をおさえた発問構成を工夫したことは、ねらいとする道徳的価値を理解させるために有効であったか。	教員用授業チェックカード 道徳ノート、ワークシート、
		②ねらいに向かわせるための手だて(話し合い・役割演技)を工夫したことは、ねらいとする道徳的価値を理解させるために有効であったか。	教員用授業チェックカード 話し合い・役割演技での発言、 児童意識調査
仮説2 について	展開後段 ・終末	③特別活動や日常生活での体験を話題として提示して振り返りを行ったことは、自分の生き方についての考えを深めさせるために有効であったか。	教員用授業チェックカード 道徳ノート、ワークシート、 道徳意識調査
		④道徳的価値についての理解を基に、感じたこと・考えたことを他者と交流させたことは、自分の生き方についての考えを深めさせるために有効であったか。	

### (4) これまでの成果と課題

#### ① 成果

- ・2学期は、中期指導主事訪問に向けた研究授業を3回行い、「役割演技の効果的な設定」、「児童の思考を深めるための問い返し」、「自分のよさや課題に気付ける振り返りの工夫」の3点について、研修を深めることができた。
- ・「教員用授業チェックカード」を使ったことにより、授業者にとっては自分の指導案チェック及び実際の授業実践の反省についての視点が、参観者にとっては授業参観の視点の共通化が図れた。これにより、授業研究会において、共通の視点で話し合うことができた。
- ・授業研究会を、小グループによるワークショップ形式で行うことにより、授業研究の質的向上が図れた。また、次の授業者への研究課題を提示することにより、研究の継続化が図れた。

#### ② 課題

- ・役割演技や振り返りの際、児童の本音を引き出すことが難しい。
- ・振り返りに生かせる共通体験(日常生活、行事)が見つげづらい内容項目がある。適切な活動を見つけたり作ったりして、別葉に位置づけたい。
- ・効果的な役割演技の取り入れ方については、意見が分かれており、今後も議論を続け、その成果を年計などに残していきたい。